

令和7年度 赤岡小学校学校評価

経営理念	<p>子どもたちが、自分を大切に、友だち一人一人を大切にする豊かな人権感覚を身につけ、学習に生き生きと取り組む教育活動を推進し、『生きる力』を育む教育を創造する。</p> <p>①基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的な生活習慣の確立、体力の増進をめざす。 ②自分や他の人を大切にする豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。 ③安全・安心な学校づくりに努める。 ④学校・家庭・地域の連携をさらに強化し、地域協働の教育活動を推進する。 ⑤チーム学校として、教育力の向上に組織的に取り組む。</p>
------	--

	中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価(学校)		評価委員評価		改善策
			評価	達成状況	評価	考察	
豊かな心の育成	I 自分や他の人を大切にする豊かな人権感覚を身につけ、生活の中で行動できるようにする。	○自分や他の人を大切に思う言動がとれるようにする。	B	○学校行事や学級活動、校外学習等を通じ、自尊感情が向上し、多くの児童が自分や友だちを大切にできる姿が見られるようになった。軽はずみな言動も少なくなった。	B	・発達途中の子どもたちの集団です。トラブルは起きます。子どもたちがトラブルを通して成長できるようこれからも継続して指導をお願いします。道徳教育では家庭での指導も重要、言葉遣いを含め連携して取り組んでください。 ・「児童生徒のアンケート」いじめや差別を絶対にはいけぬ96%あり、子どもたちの人権意識が高まっている。	○言葉遣いや相手に配慮した言動については常時、継続して支援・指導していく。 ○児童が主体的に考え行動できる行事や仲間づくりの場を仕掛け、児童の自己肯定感、自己有用感の向上に繋げていく。 ○人権意識を高めるため、仲間づくりや人権教育をさらに充実し、「いじめや差別をしてはいけない」を100%にする。
		○日常的な児童の観察を絶やさず、教職員同士の情報交換・共有などによって問題行動の早期発見に努め、組織で迅速に対応する。	B	○日常的に児童の学校生活や授業、行動等の様子を観察・把握し、学年間やブロック間での情報交換・共有を行い、ブレのないように組織的な対応に努めている。児童への対応時には、学級担任を中心に迅速な対応、保護者への連絡、家庭訪問等ができた。	B	・アンケート結果では子どもは先生を信頼しており評価が高い。先生方は日頃から、児童クラブ、家庭等に対し、訪問・情報交換・連絡など多岐にわたる迅速な対応に感謝するほどです。これからも保護者が相談しやすい環境と関係作りに努めてください。 ・問題行動の背景・原因をしっかりと認識し、持続的な生活指導や発達支持的アプローチを大切にします。	○問題行動の未然防止に努め、常時教職員間での情報共有・周知を徹底し、ブレのないよう迅速に組織的に取り組む。 ○全教職員が未然防止の意識を持ち、日常的に児童の様子を観察し、変容を見逃さないようにする。問題行動発生時には初期対応を大切にします。児童や保護者が相談しやすい環境・関係づくりに努める。常に肯定的評価を心がけ、児童に向き合う。
		○学校や社会のきまりを守れるようにし、規範意識を身につける。	B	○教職員間でも意識を持ち、継続的な指導を行っており、日常の生活等でも多くの児童に規範意識は身につけている。繰り返し個別指導が必要な児童には、丁寧かつねばり強く支援や指導を続けている。	B	・子ども・保護者・教職員のアンケートの肯定評価が高い。自転車の交通安全学習を低学年も対象に実施して欲しい(法改正あり)。 ・集団生活、規律の共通理解が重要。子どもたちの自治的活動を積極的に取り組む。	○教職員も規範意識をしっかりと持ち、学校全体で組織的に指導を継続していく。関係機関とも情報共有を密にし、連携・協働して取り組んでいく。 ○児童が自分たちで主体的に「きまり」について考えたり、改善策を立て、行動できる機会を仕掛けていく。
		○さまざまな人との出会いを通じた学習や地域についての学習などをすすめることにより自己有用感を高め、学習したことが生活の中で行動化できるようにする。	A	○各学年、内容や方法を工夫して地域の方々との交流学習を実施することができ、視野を広げることができた。活動を通じて達成感を味わい、自己有用感や自己肯定感の向上に繋げることができた。日常生活の中でも仲間を思いやり大切にできる姿勢が見られるようになった。	A	・地域のことを学習する機会や子どもが活躍できる場がたくさん設けられ、子どもたちが・赤岡町のことを大切に思い行動している姿が素晴らしかった。赤岡小の子どもたちの活躍は地域行事を企画して運営できる力を感じた。授業参観では気持ちの良い挨拶ができていた。 ・地域の人材や資源などを上手に活用しつつ、子どもにも還元できるような取組がなされている。 ・それぞれの発展段階に応じて、地域学習や地域の人から学んでいる。赤岡を誇れる子どもの育成。	○児童が日常的に地域や地域の方々との交流を深める機会や、主体的に活動できる機会を設定し仕掛けていく。様々な立場の方々との交流の機会を深め、視野を広げていく。 ○市民館や地域の施設と情報を共有し、人権学習(同和問題、高齢者学習)等、活動できる内容を検討しさらに深めていく。

学 力 の 向 上	2 基礎学力の定着・学力向上とその基盤となる基本的な生活習慣の確立をめざす。	○主体的に学習できる、「分かる楽しい授業」にするため、授業研究や授業評価を進め、授業の改善に努め共有していく。	B	○年間計画に基づき職員研修を実施し、課題の洗い出しや指導方法の方向性を共有し、日常的に授業改善に努めている。学力検査等の結果により、徐々に基礎学力の定着や学力の向上が見られるようになった。	B	・授業参観では、先生と子どもたちの距離感が近く授業で分からないことを質問したり発表ができていた。ICTの活用は自主学習で活かされていたインターネットリテラシーについて継続指導してください。 ・100%に近い子どもが「分かる」と実感しているが、「分からない」子どもへの手立ても続けながら授業が楽しくならないよう、「分かる」楽しさを味わえるようにしてほしいという願いです。 ・教員の授業力の向上の評価が必要。校内研の全体構想の提示。	○教員が向上心を持ち、ICT活用と授業改善に努めるとともに、お互いの授業を見合い、研究・共有する機会を増やす。評価・検証を大切に授業力向上に向けての継続的な取り組みを実施する。 ○校内研修の全体構想を提示し、教員一人ひとりの意識を高め、研修内容の充実を図り、教員自身が研鑽を重ねていく。 ○日々の学習支援や指導、データ分析等を行い、児童の実態に応じた指導方法を検証し授業改善に生かす。
		○保護者やボランティアの方々とともに、のびのび学習等を実施して基礎学力の定着・学力の向上を図る。	B	○地域ボランティアの方々や連携・協働し、実施することができた。 ○個に応じた支援や指導を継続することにより、児童の学習意欲や基礎学力の定着、学力向上に繋がってきている。	B	・ボランティアの方からも、学校に携わることがうれしいような励みになっているような言葉を聞きます。 ・体験学習を積極的(もっと多く)取り入れては。地域のボランティアさんの尽力に感謝です。	○授業や家庭学習でタブレット等のICT機器を有効活用し基礎学力の定着、学力向上を進めていく。 ○保護者や地域ボランティアの方々や情報を共有し、連携・協働して児童の基礎学力向上・定着に向けての取り組みを検討・継続していく。
		「読む力」「書く力」「表現する力」を育成する。	B	○日常的に授業や日誌等で読み・書きを意図的に仕掛け、「読むこと」「書くこと」「表現する力」の育成に努めている。	B	・学習の基本「聴く力」を育成して姿勢よく静かに聴くことができるように、そして「読む力」「書く力」「表現する力」を伸ばし学力向上を目指して欲しい。 ・自分の意見がないのかあるのか、あっても表現できないのは能力なのか、環境によるものなのか、様々な要因が考えられると思う。1人ひとりに合った手立てが必要だと思うので、保育所の時から大切にしていきたい。 ・物作りから学ぶ。考える力を養う。	○日常的に「読む」「書く」「表現する」場面を生かす。授業等で仕掛けて、成果を児童や保護者、家族に還元していく。 ○身についた力を主体的に活用できる場についても意識的に仕掛けて、日常生活や行事等にも生かせるように繋げていく。
		○健康や食に関する取組や体力づくりを進め、学習の土台にする。	B	○養護教諭による保健指導や栄養教諭による食育指導、また年間計画に基づいた行間体育を実施するなど体力づくりや健康、食に関する啓発、取組み等ができた。	B	・保護者と連携して取り組んだ成果が高評価です。生活習慣の改善や食育指導も実施できている。 ・手洗いコンテストの開催、もりもりモーニングなど、子どもが楽しみ、前向きに取り組める内容や取組となっていました。 ・家庭の協力が不可欠なので、家庭へのアプローチを。	○今後とも、養護教諭や栄養教諭と連携・協働し、計画的・組織的に継続して取り組んでいく。 ○保護者や家庭にも積極的に啓発を行い、連携・協働して取り組む。 ○「黒潮の子ども応援隊」の皆さまと一緒に児童や保護者、家庭への啓発を勧め、家庭との連携・協働体制を築いていく。

	3 一人ひとりが大切にされ、安全に学べる学校にする。	○楽しい学校づくりのため、意識調査や生活調査等を活用して学級集団づくりを計画的に進める。	B	○各学級担任が児童に丁寧に接し居場所を保障し、自尊感情を高めるとともに教職員間で児童の情報を共有・周知することができ、個別支援にも繋げることができた	B	・アンケート結果より子どもが学校が楽しい、保護者も子どもが学校生活に満足していると回答しています。先生方の丁寧な取組の成果だと思います。 ・調査結果の分析と共有が重要。 ・他学年との交流など色々と楽しむことを意識した活動が計画されていたと思う。継続してもらいたい。	○日常的に、子どもの様子や状態をしっかり見取り、教職員間で情報を共有・周知し、学級集団づくりや児童支援、個別対応の在り方を再確認し実践に繋げていく。 ○生活アンケート等の結果分析、課題解決に向けての方向性や手立てを全教職員で共有・周知していく。全教職員でブレないように動く。
		○委員会活動や縦割り班活動を通じてリーダーを育成し集団づくりを進める。	B	○自覚と責任をもって委員会活動や縦割り清掃活動等に主体的に取り組むことができる児童が多くなり、高学年はリーダーとしても成長し、自己有用感も向上した。	B	・縦割り班活動や行事での連携、学習支援など異学年交流が行われ、教職員のサポートを得ながら子どもたちが地域のことを学習し学校生活や地域を活性化する取組ができています。 ・子どもたちが主体的に行動しようとする姿を先生方が支えようとしていることが伺えるため(日頃の姿から)。 ・自治的活動の充実を。	○学校行事や日常的な活動の中で、児童が自信を持ち、友だち同士で関わり合い、主体的に取り組める場面を設定し仕掛けていく。 ○児童が自分たちで企画・立案し、主体的に活動できる学校行事や集会、委員会活動等を仕掛け、全教職員でサポートしていく。

信頼される学校	○特別な教育的支援の必要な子どもに対する取組を組織的・計画的に進める。	B	○校内支援会や外部機関とのケース会等で、特別に支援を要する児童の様子や支援方法を確認し、継続的に取り組んでいる。福祉事務所や児童相談所等の外部機関との更なる協働が必要である。	B	・成果を感じることは難しいかもしれないが、学校として果たす役割は十分に行っている。 ・一人ひとりの教育的ニーズ(学習や生活上の困難)を把握し、個別の指導計画に基づいた支援。	OSCやSSW、外部機関を交えた校内支援会を計画的に実施するとともに、教職員間で共通理解を図る。全教職員で支援の方向性や手立てを共有・周知しブレのないように取り組んでいく。		
	○子どもの保護者が悩みを相談しやすい学校にする。	B	○保護者との情報共有や児童との関わりを大切にして丁寧に対応している。学校評価の結果より、児童や保護者の相談に十分応えられていない場合もある。	B	・相談体制の確認と周知の徹底を。SCと連携した活動の充実を。 ・日々の児童や保護者との関係作りをもう少し意識する必要があると思う。	○常に未然防止を意識して取り組み、トラブル発生時等にも迅速かつ丁寧に対応し、保護者との連絡も密に取り合うことで信頼関係を構築していく。 ○児童や保護者と日常的に信頼関係を築き、相談しやすい環境・関係作りを進めていく。		
	○防災教育や危機管理体制を充実させ、子どもの安全を確保する。	B	○計画的な避難訓練の実施や少年防災クラブの活動等を通して、安全教育の質を高め、啓発している。 ○日頃より教職員間にも啓発を進め、危機意識を高めるよう努めている。	B	・実践的な避難訓練の計画的な実施を。 ・防災教育が実施され防災に対する意識が高い。赤岡町少年防災クラブの活躍が楽しみです。災害時子ども自身が状況を判断して避難することができるように継続して指導をお願いします。 ・保育所の抱える問題にも共に対応していただきました。細やかな対応をされています。	○様々な想定での避難訓練を計画的に実施するとともに、教員間での振り返り・再確認等を行い、学校安全への意識と指導力の向上に努める。 ○先への見通しを持ち、地域の方々や関係機関と連携し、教職員自身も防災に対する意識を高め、防災学習・避難訓練等の活動を充実させる。		
	4 開かれた学校づくりを進め、保護者や地域のひとともに子どもを育てる。	B	○学校だよりやホームページを通じて、学校の情報を積極的に提供する。	B	○「学校だより」や「各学年学級だより」、「あかっぴー」等の通信、「地域への掲示板」で地域・保護者への情報発信はできた。今後、ホームページでの情報発信・更新を改善していく。	B	・学校だよりや掲示物などで子どもたちの活動内容や頑張り、成長している姿がしっかり伝わってきました。児童数を増やすにはホームページの活用が必須です。 ・学校だよりや学年だよりを拝見していますが、児童の頑張りや生活の様子がよく分かります。また、学校として保護者に伝えたいこと、願うことが明確な内容となっていると思います。	○定期的な各通信の発行と、学校ホームページの随時の更新により、学校の近況や児童の生活、活動の様子を丁寧に保護者や地域等に発信していく。 ○教職員・保護者・地域が一体となり、連携・協働して取り組んでいく「地域の学校」を充実させる。
	○保護者や地域の人とともに、いろいろな行事に取り組む。	B	○学校行事や校外学習、地域行事等に参加し、保護者や地域の方々と共に活動することができた。行事をやり切ることや集団の中で活動することにより、達成感を味わい自己有用感を高めることができた。	A	・赤岡小学校の取組が地域を活性化する存在になっている。地域全体で子育てを支援して小学校と連携した取組を継続してほしい。 ・授業もあり限られた時間の中で、十分に取り組んでいると思います。 ・「黒潮の子ども応援隊」の積極的な活用を。 ・PTA活動と一体となった行事を。 ・一定取り組んでいると思うが、地域の人が固定化しているように思う。	○保護者や地域と共に活動できる行事等を企画・立案し、無理なく気軽に参加できる体制を構築していく。 ○保護者や地域と連携・協働を図り、地域行事にもできる限り参加していく。地域の様々な人材を活用し、児童の視野を広げていけるように努める。		
	○保護者に対して家庭学習の手引きなどを配布し、家庭学習の環境を整える。	B	○家庭学習の習慣が定着するよう働きかけているが、まだまだ全員のものとなっていない。タブレットの持ち帰り、家庭での有効活用の啓発をしていきたい。	B	・保護者の多忙さと家庭学習への取組の意識が保護者アンケートの低い原因ではないでしょうか。子どもに「自ら学ぶ力」がついて、「子どもが頑張っているから支えたい」など親子で頑張る姿が多く見られると良いですね。継続は力なり。 ・学習の手引き等の資料の提示を。	○保護者への啓発、家庭学習への協力体制の構築を各通信や参観日の懇談会時において働きかける。タブレット等ICT機器をより効果的に活用し、保護者と連携・協働して取り組んでいく。		
	○保育所や他の小学校・中学校と連携し、共に取り組む活動を充実させる。	B	○保小、小中の交流活動は定期的に実施でき交流を深めることができた。小中連携授業や体験入学、あいさつ運動も実施できた。	B	・交流学习や他小学校、高知高専出前授業など積極的に実施できている。 ・今年度も交流を通して、赤岡保育所の子どもは親しみを感じる機会となり、小学生の成長も感じられました。 ・赤中地区教育懇談会の一層の充実が必要。	○校区の校種間でさらに連携を強化し、よりよい活動内容を検討・協議していく。児童・生徒同士や教職員同士がより繋がり、連携・協働していく活動にしていける仕組みをつくる。 ○赤中地区教育懇談会による、保・小・中・高の連携体制をより充実させる。		

【評価基準】A:85%以上(十分満足) B:84~70%(おおむね満足) C:69~50%(もう少し努力すべき) D:50%未満(大いに努力が必要)